

石狩市内の神社分布(2)【厚田区】

Distribution of shrines in Ishikari City, Hokkaido, Japan (2)

【Atsuta region】

坂本 恵衣^{*}

Kei SAKAMOTO^{*}

要 旨

北海道では和人が流入、定住する中で小祠・神社の創立が行われた。本文では北海道神社庁誌記載の神社を中心に、石狩市の内特に厚田区について地域の特徴と神社分布との関連について注目した。結果として厚田区では創立された時代・祭神に着目すると、場所が置かれた沿岸部、開拓移民によって農村が開かれた内陸部では差異が見られるも内陸部では情報が一部地域に限られる等情報が不足しているため、今後のさらなる調査が求められた。

キーワード：神社、厚田区、開拓、漁村地域、農村地域

1. はじめに

北海道は江戸時代から明治時代(以下、開拓期)にかけて和人が流入し、定住及び現在の文化が定着していった背景があり、神社も幕末以降に形成されたものが多い。各神社の創立には移民の出身地での信仰や、開拓期の環境が関係していると推測される。本文では石狩市における神社分布と地域的な特色との関係について考察する。

なお、石狩市は旧石狩市域、厚田区(旧厚田村)、浜益区(旧浜益村)で形成されるが、地区ごとに和人の移入した経緯や街の形成過程に差異があるため、3地区それぞれ限定して調査を行う。

坂本(2024)は旧石狩市域を調査した結果、石狩市域においては沿岸部(漁村部)と内陸部(農村部)では創立の時期や経緯やその祭神等に差異が見られた。本文では旧石狩地域に続き、厚田区について調査した。

2. 厚田区の成り立ち

石狩市は南を札幌市に隣接し、西側一帯が日本海に面する街である。旧石狩市、厚田村、浜益村が2005(平成17)年に合併し現在の石狩市となった。

石狩市厚田区は石狩市の中部に位置する地域である。厚田区厚田(以降、個別の地名を示す場合、「厚田区」を省略)を中心に沿岸部は江戸時代から漁業(特にニシン漁)で栄えた。厚田地域でのニシン漁は1706(宝永3)年に松前藩によって厚田場所・マシケ場所が設置された頃までさかのぼるとされる。一方で、望来や聚富をはじめとした内陸部(農村部)については記録がほとんどなく、集落形成については明らかでない部分が多い。

厚田区全体の変遷に着目すると、漁場や場所請負制が終了した後、1869(明治2)年に開拓使厚田郡出張所が設置され、厚田村が開村したとされる。1902(明治35)年には2級町村制が施行され、聚富・望来・嶺泊の3村が望来村、古潭以北の7

^{*} いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

村(厚田・別狩・小谷・押琴・古潭・安瀬・濃昼)が厚田村として合併した。1907(明治40)年には1級町村制が施行され、厚田・望来の2村が合併し厚田村となった。

そして2005(平成17)年に石狩市・浜益村と合併し現在の石狩市厚田区となった(石狩町編, 1972; 石狩町編, 1985; いしかり砂丘の風資料館編, 2006; 2008; 2018; 谷内ほか, 1969; 鈴木編, 2006)。

3. 各地域の移民の流入時期と生業

前述のとおり、厚田区のうち主に農村部について集落形成の時期が定かでない地域が多い他、沿岸部についても明確な移住・集落形成時期が示されているのではなく、絵図等からおおよその集落形成時期が推測される場合がほとんどである。

記録から読み取れる地域について言及すると、厚田地域における和人の集落形成時期は漁村部の方が早く、江戸時代から漁場が置かれていた地域のほか、定住は明治以降であっても、漁期のみ漁業従事者が滞在していた地域も存在する。農業地域については古くは明治初期に少数での移住が始まり、その後開拓使の補助を受けた団体移民が流入しており、明治時代以降の移住が大半を占めるものと考えられる。

4. 神社の分布について

今回取り上げた旧石狩市域の神社は「北海道神社庁誌(同編集委員会編, 1999)」に記載され、公的に登録されたもの、及び「石狩の碑(石狩市郷土研究会編, 2012)」に記載され、地図上で位置が確認できたものを対象とした。

資料への掲載はないが現在も社殿が残っている神社については位置図(図1)及び一覧(表2)にのみ記載し、創立の時期の比較からは除外した。

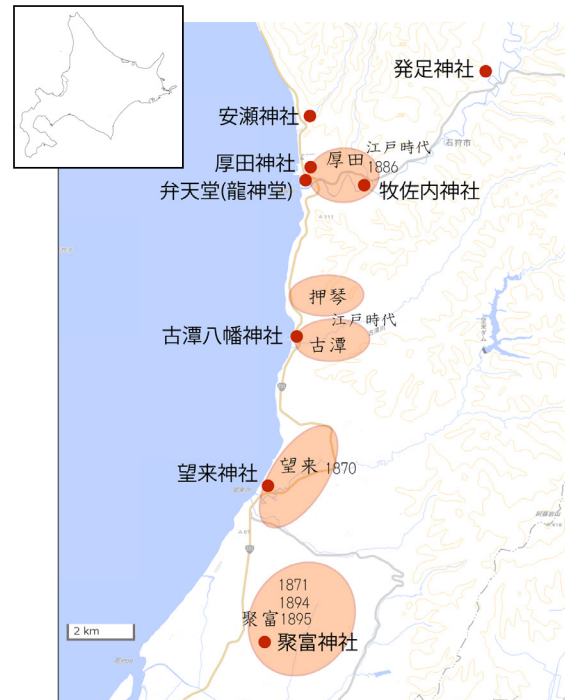


図1. 移民の流入時期と場所の一例と神社分布(国土地理院地図に加筆)
※地図は現在のものを使用し、示した地域についてはおおまかな場所を示している

表1. 厚田区における開拓移民の代表的な移住時期

地域	出身地	時期	主な生業, 事業
厚田	-	江戸時代, 1886(明治19)年以降	場所運営, 漁業, 商業, 農業(内陸側の地域)
古潭 押琴	-	江戸時代	漁業, 商業
望来	秋田, 山形, 青森, 岩手等	1870(明治3)年以降	漁業等
聚富	山形 加賀(石川) 淡路(兵庫)	1871(明治4)年以降 1894(明治27)年 1895(明治28)年以降	(漁業・季節性), 農業

(鈴木編, 2006より)

表 2. 厚田区の神社一覧

名称	場所	創立年	祭神	旧社格
1 厚田神社	厚田区厚田 1 番地 (厚田区厚田 1-14)	1847 (嘉永元) 年	保食神	村社
2 古潭八幡神社	厚田区古潭 50 番地 (厚田区古潭 50-3)	1855 (嘉永 9) 年 5 月	誉田別尊 武甕槌神	郷社
3 聚富神社	厚田区聚富 256 番地 (厚田区聚富 256-747)	1908 (明治 41) 年	保食大神	
4 望来神社	厚田区望来 87 番地 2 (厚田区望来)	1916 (大正 5) 年 8 月吉日	保食大神 誉田別大神 金毘羅大神	
5 美潭神社	厚田区古潭 155 番地 4	明治中期か	大山祇大神	
6 正一位小谷稻荷神社	厚田区小谷 178 番地 (厚田区小谷 222-1)	大正時代	稻荷大神	
7 発足神社	厚田区発足 292 番地 19 (厚田区厚田 292-19)	1938 (昭和 13) 年	大山祇大神	
8 弁天堂 (龍神堂)	厚田区厚田 3 番地 26 (厚田区厚田)	不明 (海神は 1850(嘉永 3) 年に 祀ったとされる)		
9 下発足神社	厚田区下発足	不明	保食大神	
10 越後澤龍神 越後澤水天宮	厚田区越後澤 708-84 番地	1941 (昭和 16) 年か	不明 (龍神か)	
11 厚田八大権現	厚田区厚田	不明	不明	
12 別狩神社	厚田村	不明	保食大神	
13 安瀬神社	厚田村	1830(天保元) 年か	稻荷大神	
14 牧佐内神社	(厚田区厚田 260-2)	不明	不明	

※住所については北海道神社庁誌と石狩の碑から引用し、現在地がわかるものについては () 内に地図上の住所を記載した。

網掛け部については記録にはないが、現地に社殿が確認できる神社である。

(北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999; 石狩市郷土研究会編, 2012 より)

(1) 各神社について

各神社の基本情報については表2の通りであるが、文献に記録のある神社の概要及び引用文献を下記に示す。

①厚田神社

「1848(嘉永元)年5月村民協議の上創立、惟神の大道に遵い普く同胞をして神恩を奉謝し神徳を奉体せしめ淳厚なる民風を作興し以て世界人類の福祉に寄与することを目的とする。明治36年2月17日付本殿改築の件を出願し、明治37年2月22日札第893号を以て許可。明治38年10月落成を届け出る。大正15年8月5日付を以て神饌幣帛料供進神社に指定される。同日付村社に列格。」

「1847(嘉永元)年5月村民協議の上創立。其後社格未定に付き更に村社と公称する。

1887(明治20)年萩原泰能古潭龍澤寺住職を辞し、厚田神社の神官となる。

1891(明治24)年7月『豊漁紀年碑』建立。『手水鉢』建立。

1905(明治38)年一〇月、落成を届け出る。

1916(大正5)年厚田神社の石畳、石段を佐藤松太郎と母佐藤ヨシ子が寄進する。

1926(大正15)年8月五日付けを以て神饌幣帛共進神社に指定される。同日付け村社に列格。

1981(昭和56)年厚田神社改築。」

(石狩市郷土研究会編、2012；北海道神社庁誌編輯委員会編、1999；北海道神社庁WEB——厚田神社)

②古潭八幡神社(厚田八幡神社)

「嘉永9年(1856)5月創立、明治44年4月28日郷社列格。惟神の大道に遵い普く同胞をして神恩を奉謝し神徳を奉体せしめ淳厚なる民風を作興し以て世界人類の福祉に寄与するを以て目的とする。当神社は当時道路の近傍なる故、自然尊厳を欠き不敬の所為を畏れ明治5年10月稍北方

に奉遷(現在の鎮座地)。社格未定に付更に明治8年郷社と公称。其後本殿腐朽に付、明治33年3月13日改築を出願、同年5月22日許可、同年12月8日落成を届け出る。其後明治44年4月28日付を以て郷社に列せられる。」

「旧国道沿いのヲショロコツ高台に鎮座する。現在社司を務める本間家に伝わる神社の『明細帳』(大正時代記述)を要約すると、『古潭八幡神社』は明治5年に創立し明治8年郷社と公称。同年10月に現在地に奉遷。同33年本殿・拝殿の改築。合祀も祭神は、1849(嘉永2)年創立の元嶺泊村の村社春日神社に鎮座する祭神を祀る。漁業不振にて維持困難となり、明治44年四月古潭八幡神社に合祀する。」

(石狩市郷土研究会編、2012；北海道神社庁誌編輯委員会編、1999；北海道神社庁Web——厚田八幡神社)

③聚富神社

「聚富神社は1908(明治41)年、白津狩大明神、団体八幡神社、堀頭熊神神社の三社を現在地に合祀、社殿を造営して命名した。さらに、1969(昭和44)年、白津狩日本石油宅地地鎮を合祀した。」

(石狩市郷土研究会編、2012；北海道神社庁誌編輯委員会編、1999)

④望来神社

「1885(明治18)年 金刀比羅神 河口兼次宅付近 1892(明治25)年 八幡神社 秋村一夫畑

明治20～35年頃 稲荷神社大望寺裏手の山の端同じ頃稲荷神社正利冠以上統合 1930(昭和5)年九月二六日現在地に社殿再建 相馬妙見本宮(縣社大田神社御尊像)を福島県磐城国相馬郡大田村より移す(年不明) 正一位稲荷大明神

昭和45年9月 望来開村一〇〇年を期に新改築」

(石狩市郷土研究会編、2012；北海道神社庁誌編輯委員会編、1999)

⑤美譚神社

「創立の由来は、厚田浜から約二キロの古潭川上流の河のふちに直径二mの楡の大木があった。その大木は老木のため根本がうろ(空洞)になり、人が日入れる位の空洞にちょうど乳房の形に似た二つのこぶがあった。大木の傍にはきれいな水が湧き出でいて、村人が飲むと母乳が出るようになったという。やがて遠く村外からも人々が水を汲みに集ったので『乳貰いの女神』・『靈験あらたかな神』と空洞内にご神体が祀られた。惜しいことに大木は、年々川水の浸食をうけ倒れそうになってきたことから、明治28年九月に山の上にご神体を移す。その後ほどなくして楡の大木は倒れたという。

昭和44年に現在地に遷座する。」

(石狩市郷土研究会編, 2012; 谷内ほか編, 1969)

⑥正一位小谷稲荷神社

「創立の由来等

小谷地区の漁家によって大正時代に祀る。海上安全・豊漁・家内安全を祈る集落の神社となる。

昭和47年強風のため大破、三度の遷座を経て、同57年七月現在地に改築。

現在小谷集落関係者の其田辰雄氏(石狩市親船在住)と『厚田はまなす園』が守る。

例祭日は7月上旬。

神社は厚田はまなす園の向い高台に鎮座する。」

(石狩市郷土研究会編, 2012)

⑦発足神社

「明治27年 開拓移民の一人であった美馬彦吉が、宅地内に稲荷を建立したことから始まる。

明治30年 前田節之助が、稲の神である『三好さん』を宅地内に建てた。

明治44年 中の股と左股の合流地点の山の上に、『三拝山神武神社』が建てられた。

昭和13年 『稲荷』『三好』『神武』の三神が合

祀され、現在の寿の家の山上に移された。これを契機に『発足神社』と改称された。

昭和29年 神殿が高い山地にあり、不便との住民の声により、現在地に移転した・土地は斉藤竹治氏らの貸与によるものであり、鳥居は発足産の樹木を使用。

昭和60年 開基百年事業の一環として、神社が改装された。」

(石狩市郷土研究会編, 2012; 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999)

⑧弁天堂(龍神堂)

「この弁天堂には弁財天が祀られ、古くから弁天さんと呼ばれ、村民に親しまれていた。

しかし、明治の頃、港の近くにあった中番屋の漁師が、浜辺で真白い生きた蛇を見つけてきた。番屋ではその蛇を酒をなみなみに入れ陶器の器に入れたところとぐろを巻いて死んでしまったと言う。この蛇は尾の扁平な海蛇で、村民はこの海蛇を龍神さんと称し、この弁天堂に祀ったと言う。そのため、このお堂を中番屋龍神堂とも呼ばれてきた。

元のお堂は、今の位置より一〇メートル程、後ろに建っていた。昭和20年7月15日の厚田空襲の際にはお堂の後ろに不発弾が落ちたと言う。現在のお堂は1982(昭和57)年に寄付によって改築がされた。お堂の扉を開くと目に入るのが、『龍神宮』と『象頭山』の扁額である。

祭壇には前述した龍神さんが祀られてあり、他に、三体の海神が祀られている。この海神は中央の一体は上位に、他の二体は下位に、海面に立っているように模様が施されている。現在は木箱に納められているが以前は厨子に納められていたようでその裏側には『1850(嘉永3)年戊午二月作也。大坂二ツ井戸川南東がわ。仏師岩井弥兵衛』と墨書してあったという。」

(石狩市郷土研究会編, 2012; 谷内ほか編, 1969)

⑨下発足神社

(石狩市郷土研究会編, 2012; 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999)

⑩越後澤龍神 越後澤水天宮

(石狩市郷土研究会編, 2012)

⑪厚田八大権現

(石狩市郷土研究会編, 2012)

⑫別狩神社

(石狩市郷土研究会編, 2012; 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999)

⑬安瀬神社

「安瀬神社は、『1830(天保元)年寅年, 厚田場所請負人平田與三右衛門創立, 社格未定ニ付更ニ1875(明治8)年村社と公称, 1911(明治44)年3月3日, 厚田神社へ合祀出願, 明治45年2月3日付けを以て許可合祀ス』と厚田神社の宮司本間家に伝わる明細帳に記してある. しかし, その後も未公認神社として2006(平成18)年まで地域の人々の心の拠りどころとして親しまれていた。」

(石狩市郷土研究会編, 2012; 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999)

③聚富神社, ⑦発足神社, ⑨下発足神社は農業地域, 残る10社は漁村地域に位置する.

(2) 各地域の特色と神社の傾向

①神社の創立時期

厚田地域については定かでない部分が多いが, 漁村地域が江戸時代, 農村地域が明治以降に集落が形成されており, 神社の創立時期についても集落形成後に神社が創立されている. このことから, 厚田地域の神社について, 和人が定住するようになって以降創立されたものであることを示している.

②生業との関連性

生業については漁村地域と農業地域で情報の偏

表3. 各地域への移住時期と神社の創立年

地域と移入時期	神社と創立年
厚田 江戸時代	厚田神社 1847(嘉永元)年 弁天堂(龍神堂) 不明(海神は1850(嘉永3)年に祀ったとされる)
	厚田八大権現 不明
	発足神社 厚田の内陸部(発足) 1886(明治19)年以降
	下発足神社 不明
別狩	別狩神社 不明
古潭 江戸時代	古潭八幡神社 1855(嘉永9)年5月 美潭神社 明治中期か
聚富	聚富神社 1871(明治4)年以降
望来	望来神社 1870(明治3)年以降
越後澤(望来)	越後澤龍神 越後澤水天宮 1941(昭和16)年か
小谷	正一位小谷稲荷神社 大正時代
安瀬	安瀬神社 1830(天保元)年か

※所在地がわかるものは該当地域と, 不明なもののおよその位置(地域)と比較した.
網掛け部は地図に位置が不確定等で所在を掲載していない地域である.

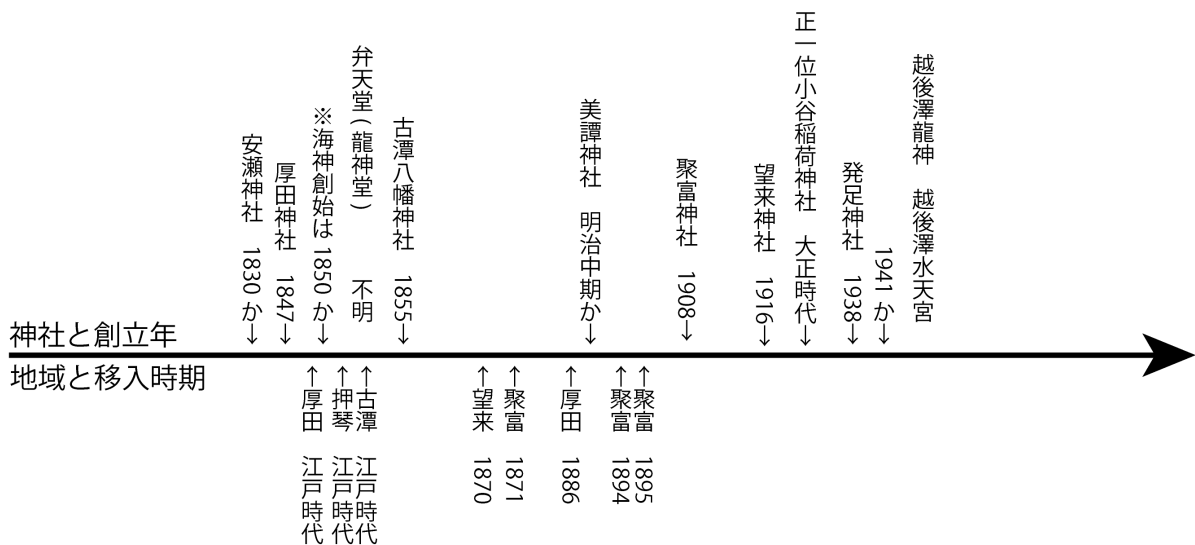


図2. 各地域への移住時期と神社の創立年比較図

りが大きく、厚田地域の一般例とすることは困難であるが、おおよそ生業との関連性があるものと推測できた。

農業地域に着目すると、③聚富神社の祭神は保食大神、⑦発足神社は大山祇大神、⑨下発足神社は保食大神といずれも山や豊穰、農耕神とされる祭神を祀っており、農業を生業とする人々の中で祀られるようになったものと考えられる。なお、いずれの祭神についても広く信仰された祭神であり、特に保食大神については豊穰から大漁のご利益もあるとされ、漁業地域でも祀られているほか、稲荷神としても広く祀られている。

漁業地域のほとんどが漁業信仰の神を祀っているが、例外として古潭八幡神社の祭神である武甕槌神については、旧嶺泊村の春日大社が由縁となっており、春日大社の祭神の一柱が武甕槌神であることから、生業ではなく地域的な由縁と判断できる。

残りの9社についても保食大神や誉田別尊、金毘羅大神、弁財天、海神等いずれも漁業と縁のある祭神である。これらの祭神については石狩市域の神社分布調査においても多く確認されている（坂本，2024：7-14）。

以上をふまえると、農業地域、漁村地域のほと

んどの地域において生業と関係のある祭神を祀っていたものと考えることができた。これは各神社が入植、集落形成の後、人々の支えとして神社が求められたことが背景にあると推測される。このことから、地域の文化的背景や生活・生業が神社の形成や信仰に反映されていると言える。

5. おわりに

本文では石狩市の中でも厚田地域という一部地域に限定して神社分布について考察した。厚田地域の場合、現在地が確認できる神社及び明確な記録が残されている神社（石狩市郷土研究会編，2012）に限定したほか、地域の歴史資料も少なく調査対象外とした地域も多く残されたため、今後の調査で明らかにする必要がある。

また、石狩市域については2023年度の調査において一部言及したが、浜益地域・厚田地域とも町の形成過程が異なるため、対象外とした。今後は厚田地域についてさらなる調査を行うほか、浜益地域や石狩市全域へと調査範囲を拡大することで、北海道の沿岸地域に見られる神社分布の位置傾向を示すことができると考えられる。

引用文献

- 平凡社地方資料センター編, 2003. 北海道の地名,
日本歴史地名大系第一巻, 平凡社, 東京, 158-
163.
- 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999. 北海道神社庁誌.
北海道神社庁, 262-263, 814-815.
- 石狩町編, 1972. 石狩町誌 上巻. 石狩町, 179-
306.
- 石狩町編, 1985. 石狩町誌 中巻一. 石狩町, 71-
115.
- 石狩市郷土研究石狩の碑厚田区編調査編集委員会,
2012. 石狩の碑 第4輯 厚田区編. 石狩市郷土
研究会, 1-161.
- いしかり砂丘の風資料館編, 2006・2008・2018,
いしかりファイル. 53, 85, 92, 161, いしか
り砂丘の風資料館.
- 坂本恵衣, 2024, 石狩市内の神社分布 (1) 【旧石狩市
域】, いしかり砂丘の風資料館, 14: 7-14.
- 鈴木紘男編, 2006, あつたの歩み. 石狩市厚田区,
60-71, 98-128.
- 谷内鴻・藤村久和・鈴木藤吉・木滑二郎編, 1969.
厚田村史. 厚田村, 386-444.
- 北海道神社庁Web. <https://hokkaidojinjacho.jp/> (最
終閲覧日: 2025年1月5日)
- 厚田神社 <https://hokkaidojinjacho.jp/> 厚田神社 /
厚田八幡神社 <https://hokkaidojinjacho.jp/> 厚田八幡
神社 /